

税金は命の恩人

学校法人共栄学園春日部共栄中学校 3年 清水 結実

世界一の長寿国である日本。

日本人の寿命が延びた理由の一つに医療技術の進歩や、医療制度が大きく関係している。日本の医療保険制度は、誰でも平等に医療を受けることができる優れた特徴があり、この制度が長寿に貢献していることに違いない。

制度の財源は「税金」という仕組みだ。もし税金で賄うことができず、全てが有料だとしたら、医療を受けることを諦めてしまう人がいるかもしれない。

私の祖母は、この制度に助けられた一人である。

心臓の悪い祖母は度々発作を起こし、一時的に意識を失ってしまうこともあった。薬の治療が難しくなり、放っておけば死んでしまうかもしれない。医師から提案されたのはペースメーカーを入れる手術だ。ペースメーカーとは、五百円位の精密機械を鎖骨の下に埋め込むのだ。それを行えば心臓の働きを助けてくれて発作はなくなる。

祖母は仕事で忙しい母に代わり、家事や私の面倒を見てくれていた。働き者で料理の上手な祖母が台所に立つことさえやっとなっていた。

人の噂で、ペースメーカーの手術には、一度に莫大なお金がかかるらしいと、不安になる情報ばかりが祖母の耳に入っていたのだ。手術とペースメーカーの高額さを心配してか「私はもう八十過ぎたしね、みんなに迷惑かけても…」と静かに笑った。

次の診療で、ペースメーカーの手術について話を聞いた。現在の医療保険制度では、高額な医療費がかかる際、高額医療費制度があり支払いの負担が軽減されているようだ。これには「税金」が使われており、患者側に大きな支払いが行かないようになっている。説明を聞いた祖母は、「あと何年生きられるかわからないけど、もう少しみんなといたい」と言い手術を決意した。

命は平等である。もし、この制度が無く、高額だからと諦め、消えていった命があったとしたらとても悲しくなる。

祖母は三年後亡くなってしまったが、日本の高度な医療と、高額医療制度のおかげでペースメーカーを入れたことにより、私の中学受験を見守ってくれ合格を喜ぶ時間を共にできたことに感謝したい。

医療費は治療や手術を受ける人たちにとっての強みである。高額な医療費だからとか、年だからではなく、医療費を使い今後どう生きていくかを考え、自分の大切な人と少しでも長く過ごせるよう助け合いの「税金」を使ってほしい。

税金は、安心と笑顔を取り戻す私たちの強い味方と言うことをたくさんの人に知ってほしい。近い将来、今度は私たちが担い手となり、知らない誰かを支えていくであろう。